

平成30年度事業報告

自 平成30年4月 1日

至 平成31年3月31日

1 事業概要

千葉県の畜産を、最新の産出額で見ますと1,432億円（平成29年）と前年に引き続き過去最高額を更新しており、全国第5位の畜産物生産県として、首都圏への食料供給基地の役割を担っています。また、農業産出額合計で見ても、畜産は千葉県農業の30.1%を占めており、千葉県農業における主要品目となっております。

しかしながら、規模拡大の遅れ、労働力や後継者問題等による飼養戸数や頭数の減少など、生産基盤の縮小が進んでおります。

また、養豚では昨年9月に国内中部地域で26年ぶりに発生した豚コレラや昨年8月に中国で発生したアフリカ豚コレラが大きな脅威となっており、PEDやPRRS等の発生による生産性の低下も大きな問題となっています。

さらに、TPP11や日・EU EPA発効による畜産物の輸入拡大の影響が心配されているところです。

このような状況にあって、当協会は「公益社団法人」としての社会的使命と役割を十分に認識し、県民・消費者と畜産経営者、関係団体・行政機関等との密接な連携に努め、安全で信頼される県産畜産物が安定的に供給されるよう、様々な事業に取り組み、千葉県の畜産振興に努めてまいりました。

平成30年度は、畜産経営を支援する事業として11事業、家畜衛生向上及び環境に関する事業として14事業、畜産の活性化を進める事業として3事業、畜産物の品質向上を図る事業として2事業、畜産経営の安定化を図る事業として8事業、並びに特別事業として1事業、計39の事業を実施してまいりました。

なかでも、昨年12月30日にTPP11が発効したことにより法制化された肉用牛肥育経営安定特別対策事業（牛マルキン）及び養豚経営安定対策事業（豚マルキン）については、交付金制度への移行事務を円滑に進めてまいりました。

また、地域における中心的経営体の収益性の向上等に必要な機械装置の導入を支援する畜産・酪農収益力強化総合対策基金事業の千葉県の窓口として、121件の事業要望を受け付けるなど、事業の円滑な推進に努めてまいりました。

なお、豚コレラ等の悪性家畜伝染病が発生した場合において発生農家の経営再開を支援する家畜防疫互助基金造成等支援事業については、新たな業務年間（平成30年度～令和2年度）の開始に伴い、農家の基金加入を進めてまいりました。

そのほか、ナイスポークチバ推進協議会及びチバザビーフ協議会等、計１０団体の事務局をも務め、生産者や関係機関・団体等と連携し、円滑な団体運営・効率的な事業推進を図ってまいりました。

２ 会員及び役職員の構成（平成３１年３月３１日現在）

（１）会員

区分	計
県域畜産団体	２１
市町村	５１
自衛防疫組織	４８
農協・会社等	２９
生産者組合等	１２
賛助会員	５
合計	１６６

（２）役員

（単位：名）

会長	副会長	専務理事	理事	監事	計
１	５	１	１０	４	２１

（３）職員

（職種別）

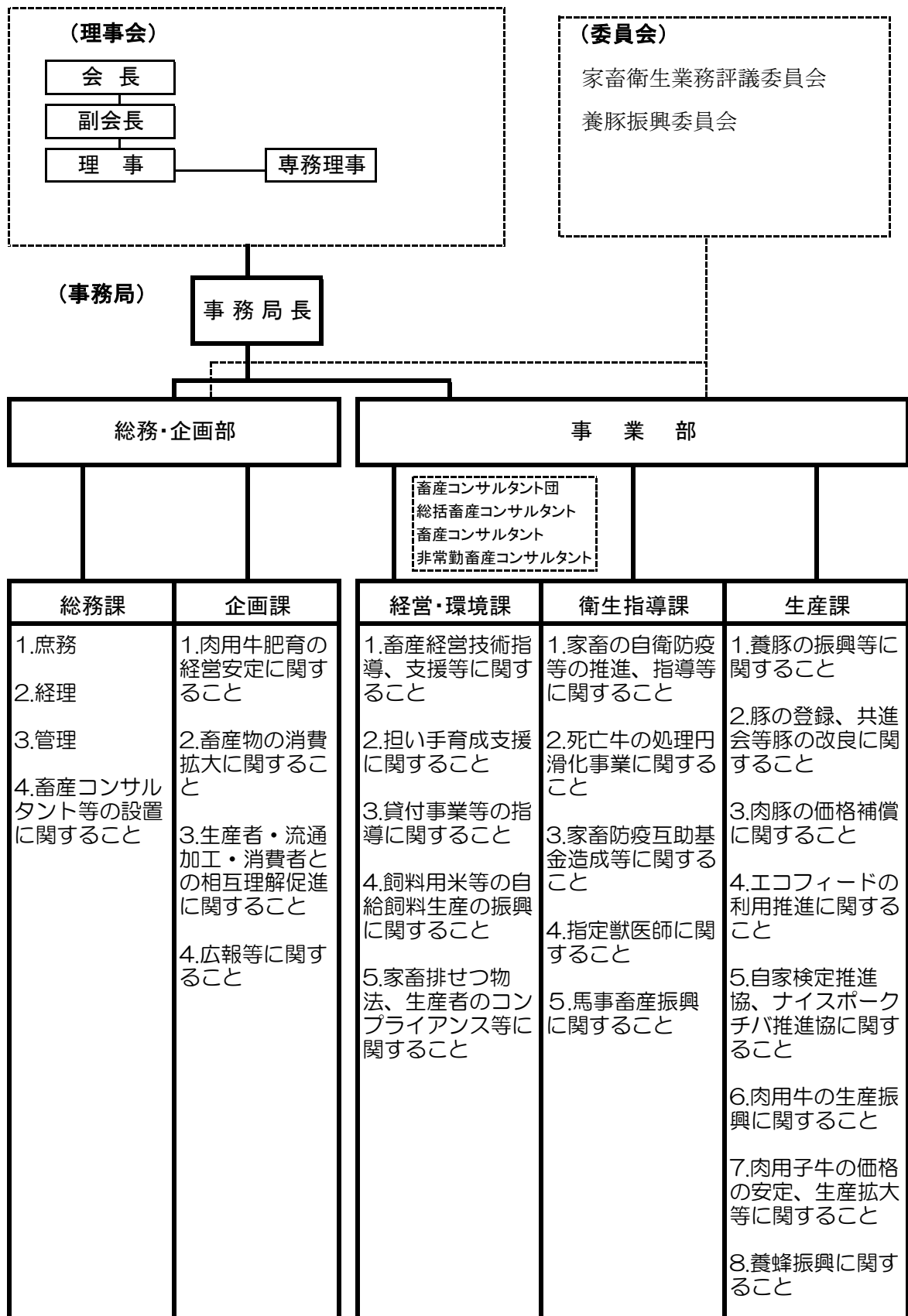
（単位：名）

区分	総括畜産 コンサルタント	畜産 コンサルタント	技術職員	臨時職員	合計
人数	６	４	１	５	１６

（所属別）

（単位：名）

区分	職員	嘱託及び 臨時職員	合計
専務理事・事務局長	２	—	２
総務・企画部	４	３	７
事業部	３	４	７
合計	９	７	１６



3 会議の開催

(1) 監事会

期 日	場 所	内 容
平成30年5月28日	K & T 千葉ビル	平成29年度事業報告並びに貸借対照表、損益計算書及び財産目録について

(2) 理事会

期 日	場 所	内 容
平成30年6月4日	ホテルプラザ 菜の花	1) 平成29年度事業報告並びに貸借対照表、損益計算書及び財産目録について 2) 諸規定の一部改正について 3) 平成30年度会費の額及び徴収方法について 4) 役員の改選について 5) 肉用牛肥育経営安定特別対策事業業務方法書の一部改正について 6) 肉用子牛生産者補給金制度における生産者積立準備金等の返還の取扱いに関する指針の制定について 7) 家畜防疫互助事業業務方法書の制定について 8) 役員の報酬額について 9) 平成30年度定時総会について 報告事項 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について 会員の退会について 肉用子牛生産者補給金交付業務規程の一部改正の修正について
平成30年6月25日	ホテルプラザ 菜の花	1) 会長、副会長及び専務理事の互選について
平成30年11月19日	ホテルプラザ 菜の花	1) T P P 等関連法の施行に伴う肉用牛肥育経営安定交付金制度（牛マルキン制度）への移行について 2) 役員の補欠選任について 3) 平成30年度臨時総会について
平成31年3月4日	ホテルプラザ 菜の花	1) 平成31年度事業計画及び収支予算について 2) 平成31年度借入金の最高限度額及び借入先の決定について 3) 副会長の互選について 報告事項 1) 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について

(3) 総 会

期 日	場 所	内 容
平成30年6月25日	ホテルラザ`菜の花	報告事項 1 平成29年度事業報告について 2 平成30年度事業計画並びに収支予算について 議案 1) 平成29年度貸借対照表、損益計算書及び財産目録について 2) 平成30年度会費の額及び徴収方法について 3) 役員の改選について 4) 役員の報酬額について
平成30年12月11日	K & T 千葉ビル	1) 役員の補欠選任について

(4) 家畜衛生業務評議委員会

平成30年6月12日	ホテルラザ`菜の花	1) 平成29年度家畜衛生業務関係事業の実績について 2) 平成30年度家畜衛生業務関係事業の計画について 3) 家畜衛生業務に係る指定獣医師の諮問について 4) 急性悪性家畜伝染病発生時緊急対策事業（仮称～新規）について 5) その他
平成31年3月6日付	書面決議	1) 平成31年度予防接種負担金額の決定について

(5) 養豚振興委員会

期 日	場 所	内 容
平成30年7月30日	千葉県教育会館	1) 平成30年度千葉県肉豚共進会について 2) 原種豚の認定及び助成について 3) 系統造成豚普及に向けた取組みについて 4) 農場HACCP・JGAPへの取組みについて 5) 平成30年度養豚経営安定対策事業（豚マルキン）について 6) 平成30年度養豚経営安定対策補完事業について 7) 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策（畜産クラスター事業）について 8) ナイスポークチバ推進協議会の活動について 9) その他

(6) 定例会議

原則として、毎月末に常勤役職員による定例会議を開催し、翌月以降の事業の計画的な推進と進捗状況の確認及び業務の円滑化・効率化に努めた。

I 畜産経営を支援する事業

1 地域畜産支援指導等体制強化事業（地方競馬全国協会）公益

地方競馬全国協会からの補助金を得て、①畜産経営の支援体制の強化を図る事業、②地域畜産の活性化、安全かつ安定的な食の提供に資するための事業、③馬事普及啓発の推進体制の強化を図る事業に係る3事業を実施した。

2 畜産コンサルタント等設置事業（県）公益

畜産経営の経営改善を図るため、組織活動支援を含めた経営改善指導を実施した。

3 会報誌編集発行事業（協会単独）その他

畜産の生産から流通・消費に関する最新情報を、協会の情報誌「畜産ネットワークちば」を3回（第42号～44号 各1,700部）発行し、協会会員はじめ関係機関、団体に配布し畜産経営の支援等に資した。

4 地域畜産総合支援体制整備事業（県）公益

畜産経営の安定化に資するため、県及び関係機関・団体の協力を得て、畜産経営体に対する支援指導を行った。

(1) 畜産コンサルタント団の設置

区 分	総括畜産 コンサルタント	畜 産 コンサルタント	非常勤畜産 コンサルタント	フォローアップ 指導員
人数（名）	5	2	31	11

(2) 畜産経営体支援指導研究会

畜産経営技術等の支援指導・畜産経営状況調査を効果的に行うための具体的な指導内容・手法等を検討する総合委員会及び専門委員会を下記のとおり開催した。

① 総合委員会：平成30年7月18日

② 専門委員会：平成30年7月18日

(3) 畜産経営技術指導用機器の整備

畜産経営体の支援指導を効果的かつ効率的に行うため、経営支援用パーソナルコンピュータをリースした。

(4) 畜産経営技術の支援指導

畜産経営体等からの要請内容・経営水準・実態等に応じ、経営改善のための効果的な支援指導を次のとおり実施した。

① 個別支援指導

畜産経営体に対する経営診断改善指導・経営管理技術指導・生産技術指導・フォローアップ指導等を下記のとおり実施した。

項 目	経営診断 改善指導	経営管理 技術指導	生産技術 指 導	フォローアップ 指 導	計
戸数(戸)	1 2 (酪農)			1 0 (酪農)	2 2
件数(件)	1 2	1 2	1 2	3 0	6 6

② 地域支援指導

畜産経営技術に関する研修・意見交換等を行う場としての経営セミナー等を4回(参加者:188人)開催し、地域の経営体集団に対して経営改善のための支援を行った。

指導実績	開催期日	開催場所	人数	内 容
① 第1回安房 郡市乳牛育成 指導会 (安房地域)	平成30年 6月30日	館山市	70人 (30人)	① 審査・審査研修 ② 出品技術講習 ③ 意見交換
② サイレージ 品評会及び 自給飼料研 修会 (印旛地域)	平成30年 12月13日	佐倉市	27人 (5人)	① サイレージ品評会 ② 自給飼料研修会 「耕畜連携による自給飼料増産の取組及び子牛の哺育管理について」 海上自給飼料生産組合 副組合長 石橋福兆 「昨年実施したカビ毒調査における印旛管内の結果について」 日本ニュートリション株式会社 後藤卓士
③ 第2回安房郡 市乳牛育成 指導会 (安房地域)	平成31年 2月23日	館山市	70人 (40人)	① 審査・審査研修・講評 ② 飼養管理講習 ～代謝プロフィールテストの結果から～ 講師:南部家畜診療所 渡辺哲也
④ 自給飼料研 修会 (香取地域)	平成31年 3月18日	香取市	21人 (13人)	① 研修 第一部『多収作付体系の構築(二期作・二毛作関連)』 第二部『青刈りトウモロコシ栽培の水田活用について』 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 菅野 勉 栽培技術ユニット長

- (5) 畜産経営関係情報のデータベースの整備
畜産経営体に対する効果的な支援指導を行う目的で、畜産関係情報のホームページによる提供を行った。

5 貸付事業指導等事業（（公財）畜産近代化リース協会）**その他**

畜産近代化リース協会からの畜産機械、施設等の借受者を対象にその効果的利用を促進するため、再貸付団体の協力を得て、56基について確認調査並びに指導を実施した。

1 再貸付団体

No.	再貸付団体名	生産者数	No.	再貸付団体名	生産者数
1	県みるく農協中央支所	5	7	八千代酪農協	5
2	県みるく農協東部支所	3	8	千葉北部酪農協	3
3	県みるく農協南部支所	13	9	全農千葉県本部	3
4	千葉県三和酪農協	5	10	新生酪農クラブ	1
5	長生酪農協	1			
6	千葉酪農協	4	計		43

2 貸付施設等

No.	貸付施設区分	調査数
1	自給飼料生産利用機械施設	31
2	生乳生産合理化施設	16
3	畜舎環境改善機械施設	9
4	生乳処理流通施設	0
計		56

6 畜産特別資金等推進指導事業（（公社）中央畜産会）**公益**

大家畜改善緊急支援資金、大家畜経営維持緊急支援資金、養豚改善緊急支援資金及び養豚経営維持緊急支援資金借入者の経営改善に資するため、年2回の県支援協議会（本協会事務局）を開催するとともに、現地調査等を実施し、経営改善方策等について検討の上、借入者に対する助言指導を行った。

また、現地調査指導等は生産者並びに融資機関を対象に行い、現状の問題点等について聞き取り助言指導を行った。

維持緊急支援5経営（肉用牛1、養豚4）

改善緊急支援4経営（酪農1、肉用牛1、養豚2）

7 肉用牛経営安定対策補完事業（（独）農畜産業振興機構）**公益**

（1）地域における肉用牛生産基盤強化等対策事業

肉用牛繁殖基盤の強化を目的とし、地域の中核となる担い手育成のための繁殖雌牛増頭のための奨励金の交付、肉用牛ヘルパー活動推進（削蹄、出荷、除角など）を推進した。

中核的担い手育成 増頭対策	千葉県肉牛生産農業協同組合 増頭奨励金 21頭
肉用牛ヘルパー活 動推進	2カ所（安房・香取）各肉用牛ヘルパー利用組 合の飼養管理、削蹄補助、出荷ヘルパー等の利用 の推進

8 エコフィード・TMR普及定着推進事業（県）公益

畜産業において飼料自給率の向上は大きな課題であることから、千葉県ではエコフィード及びTMRの利用推進に取り組み、飼料自給力の強化を図ってきた。

近年、エコフィードを新規に利用する農家が増えているほか、粕類等を活用したTMRの生産・利用も進んでいることから、これら国内由来飼料の普及に加え、利用の定着を図ることが求められている。

このため、エコフィード及びTMRの利用に精通した人材を千葉県エコフィードコンサルタントとして設置し、指導・調査及び研修会等を通じ、畜産農家におけるエコフィード・TMRの利用定着を図った。

9 畜産・酪農収益力強化総合対策基金事業（（公社）中央畜産会）公益

地域における中心的経営体の収益性の向上等に必要な機械装置の導入を支援する本事業の千葉県の窓口として、事業要望（121件）、参加申請（66件）のとりまとめ等を実施し円滑な事業推進を図った。

また、機械導入状況調査に係る現地調査（10件）等も実施した。

10 酪農経営体生産性向上緊急対策事業（楽酪事業）及び酪農労働省力化推進施設等緊急整備対策事業（楽酪GO事業）（（公社）中央畜産会）公益

酪農家における労働負担軽減・省力化等の取組みに必要な機械装置の導入（楽酪事業）及び導入と一体的な施設の整備（楽酪GO事業）を支援する本事業の本県窓口として、事業の普及、事業推進指導業務を行い、実施計画申請（機械装置等数：16件）の取りまとめ等を行った。

11 養豚経営安定対策補完事業（（独）農畜産業振興機構）公益

養豚経営の安定化を図るためには、更なる経営コスト削減及び生産性の向上を図っていくことが必要である。そのため、各地域における能力向上や能力評価に必要な一代雑種雌豚を導入し、養豚経営の体質強化を図った
3団体 養豚生産者7名 一代雑種雌豚179頭導入

Ⅱ 家畜衛生向上及び環境に関する事業

1 家畜生産農場清浄化支援対策事業（国庫）公益

畜産の健全な発展に資するため、牛ヨーネ病、豚オーエスキー病及び牛白血病の清浄化対策、牛ウイルス性下痢・粘膜病対策及び予防接種によるアカバネ病等の発生・流行防止対策を推進し、自主的な家畜防疫意識の向上と家畜の損耗防止を図った。

（１）牛ヨーネ病清浄化支援対策

ヨーネ病発生農場の清浄化を図るため、ヨーネ病 PCR 検査で定量判定以下の DNA が検出された乳牛の自主とう汰に対して助成した。

- ・感染牛とう汰 ５頭

（２）E B L 感染拡大防止対策

E B L の感染拡大防止を推進するため、抗体検査等に対して助成した。

- ・抗体検査 １，６６０頭 ・対象農家 １８農場
- ・吸血昆虫の忌避・駆除対策 ４件（ペルネット、ペルタグ等導入補助）
- ・高リスク牛のとう汰推進 １３頭（１農場）
- ・研修会の開催 安房 NOSAI センター（３９名参加）

（３）牛ウイルス性下痢・粘膜病対策

牛ウイルス性下痢・粘膜病の清浄化を推進するため、発生農場等の重点的な検査、本病の持続感染牛のとう汰、ワクチン接種等に助成した。

- ・検査 ５，８８７頭（２５農場）
- ・ワクチン接種 １１４頭（２農場）
- ・PI 牛のとう汰推進 ２８頭（乳牛７頭、肉牛２１頭）
- ・講習会の開催 ヒューマンプラザ黄鶴（５３名参加）

（４）オーエスキー病対策

豚のオーエスキー病の清浄性を維持・確認するため、農場の清浄度を把握する検査に対し助成した。

オーエスキー病検査等実績 ３５０頭（５８農場）

（５）疾病流行防止支援対策事業

牛の異常産の発生・流行を防止するため、下記のワクチン接種について助成した。

アカバネ病（単味）	異常産（３種混合）
３，５７６頭	８，８２２頭

2 家畜防疫互助基金造成等支援事業（(独)農畜産業振興機構）公益

畜産経営に甚大な影響を及ぼす海外悪性伝染病（口蹄疫、牛肺疫、牛痘、豚コレラ、アフリカ豚コレラの５疾病）の発生に備え、牛及び豚飼養農家による互助基金の造成を支援し、万一の発生に際して同額の補助金（(独)農畜産

業振興機構助成）を加えた互助金を交付し、損害及び経営再建への支援を図る。平成 30 年度は事業期間（平成 30 年度～32 年度までの 3 か年）の 1 年目にあたる。

今期（平成 30 年度）の加入状況

牛			豚		
戸数	頭数	基金造成額	戸数	頭数	基金造成額
537 戸	61,719 頭	9,341,675 円	162 戸	592,218 頭	24,595,940 円

3 死亡牛緊急検査処理円滑化推進事業（国庫）公益

（牛疾病検査円滑化推進対策事業）

牛海綿状脳症（BSE）検査が必要な 48 ヶ月齢以上の死亡牛の円滑・適正な処理を推進するため、死亡牛の発生農場から化製場までの輸送費及び焼却処理経費に対し助成した。

・輸送費（840 頭）、適正化製処理費（820 頭）

4 馬飼養衛生管理特別対策事業（（公社）中央畜産会）その他

馬の生産、流通の国際化等に伴い馬インフルエンザ等の侵入、流行の危険性が高いことから、競走馬以外の馬の獣医療実態調査、飼養衛生管理技術講習会等を行い、馬防疫の意識向上に努めた。

- （1）馬飼養衛生管理体制整備委員会の開催 1 回 7 名出席
日時：平成 30 年 9 月 6 日（木） 場所：ホテルラザ 菜の花（千葉市）
- （2）馬飼養衛生管理技術講習会の開催 1 回 30 名出席
日時：平成 31 年 1 月 23 日（水） 場所：千葉市生涯学習センター（千葉市）
演題・講師
 - ①馬の疾病と栄養管理対策について
講師：日本中央競馬会 馬事部 防疫課 係長 浦山俊太郎先生
 - ②馬の飼養衛生管理基準について
講師：千葉県畜産課 家畜衛生対策室 副主査 細野真司先生
- （3）地域馬獣医療技術基礎調査
乗馬クラブ等の馬飼養者を対象に「馬飼養衛生管理基準に基づく衛生管理区域の設定状況による予防衛生対策等に関する調査」を実施した。
調査対象戸数 95 戸、回答戸数 46 戸（48%）から回答が得られた。
- （4）馬飼養衛生基礎技術実習 1 回 11 名出席
日時：平成 31 年 2 月 27 日（水） 場所：船橋競馬組合（船橋市）
講義：馬飼養衛生に関する臨床実習について（馬の取扱、診断・治療等について）
講師：船橋競馬獣医師会 会長 竹田和憲先生

5 育成馬等予防接種推進事業（（公社）中央畜産会）**その他**

馬飼養の集団化、多様化及び煩雑な移動等の実態を踏まえ競馬場入きゅう前の育成馬等について予防接種の徹底を図るため、下記のワクチン接種に対して助成し、馬防疫の推進に努めた。

3種混合ワクチン			馬インフルエンザワクチン				日本脳炎 ワクチン	2種混合 ワクチン	計
1歳馬	2歳馬	計	1歳馬	2歳馬	繁殖牝	計	2歳馬	2歳馬	
32頭	24頭	56頭	16頭	29頭	3頭	48頭	15頭	21頭	140頭

6 馬伝染性疾病防疫推進対策事業（（公社）中央畜産会）**その他**

地域における自主防疫活動の強化を図るため検討会を開催し、競走馬以外の乗用馬等を対象とした馬インフルエンザワクチン接種の推進、軽種馬の繁殖牝馬を対象とした馬鼻肺炎ワクチン接種の推進を図った。

馬インフルエンザワクチン	馬鼻肺炎ワクチン
715頭（乗用馬 715頭、小格馬等 - 頭）	0頭（ 頭× 回接種）

7 地域自衛防疫強化特別対策事業（家畜衛生推進協議会）**その他**

生産現場における自衛防疫体制の強化を図るため、生産者参加による防疫演習を行った。

区分	行事名等	実施月日	実施場所	概 要
県域防疫演習	HPAI 防疫演習 （県演習に共催）	10月26日	千葉市農政センター（千葉市）	参加者 350名 内生産者等 8名

8 農場 HACCP 取組体制緊急強化事業（（公社）中央畜産会）**公益**

農場 HACCP の普及促進を図るため、農場 HACCP 推進農場の実態を調査するとともに、認証に向けて取組む農場に対して技術指導者を派遣し、効果的な指導・支援を行い、認証普及を図った。

（1）普及推進協議会等会議の開催

①普及推進協議会：3回、 ②地域取組促進活動：4回

（2）農場 HACCP 認証構築指導推進事業

①農場 HACCP 構築指導に係る意見交換会の開催：3回

②農場 HACCP 構築指導事業

対象農場：酪農 4 農場、肉牛 16 農場、豚 21 農場、採卵鶏 3 農場
ブロイラー 1 農場 計 45 農場 農場 HACCP 指導員：17 名

9 畜産 GAP 拡大推進加速化事業（（公社）中央畜産会）**公益**

日本版畜産 GAP の普及推進のため、生産現場での研修会、GAP 認証取得のための個別指導、コンサルタント等を行った。

研修会 3 回、個別指導農家数 12 戸（23 回）、コンサルタント実施 3 戸

10 野生獣衛生体制整備推進確立対策事業

(家畜衛生対策推進協議会 事務局：中央畜産会) **その他**

野生獣による家畜への伝染病の伝播拡散や人畜共通感染症の浸潤等、家畜衛生管理上の危害の防止を図るため、イノシシ、シカ等の野生獣に係る衛生実態等の調査、畜舎侵入防止対策及び衛生管理に関する広報の普及を図った。

(1) 地域衛生技術連絡協議会：3回（研修会1回）

(2) 野生獣の衛生実態等調査

シカ：20頭9項目（E型肝炎、サルモネラ感染症、カンピロバクター感染症、腸管出血性大腸菌感染症、トキソプラズマ病、日本脳炎、牛ウイルス性下痢粘膜病、重症熱性血小板減少症候群、住肉胞子虫）

イノシシ：24頭9項目（E型肝炎、サルモネラ症、オーエスキー病、トキソプラズマ病、豚丹毒、豚流行性下痢、日本脳炎、豚パルボウイルス症、重症熱性血小板減少症候群）

11 地域豚疾病緊急対策推進事業（（公社）中央畜産会） **その他**

養豚主要生産地域である旭市において、生産性を阻害するPRRSの発生低減やバイオセキュリティ強化に取り組む自衛防疫組織に対して、必要な防疫対策などに係る経費の助成を行い、生産性の向上を図った。

(1) 対象 旭市養豚推進協議会の生産者（66戸）

(2) 地域推進会議

ア 旭市PRRSコントロールプロジェクト・マネジメント会議（9回）

開催場所 旭市干潟支所

開催月日 平成30年5月1日、7月6日、7月12日、7月17日、
8月21日、9月19日、12月19日、12月25日、平成31年1月15日

イ 旭市PRRSコントロールプロジェクト・全体会議～研修会（3回）

開催場所 旭市干潟支所

開催月日 平成30年9月27日、10月25日、平成31年1月22日

(3) 実施内容

ア PRRS対策実践農場（モデル）～7農場

① ステージング検査（年2回）

ELISA検査 811頭

PCR検査 195検体

シーケンス検査 21検体

② 着地検査（随時）

ELISA検査 104頭

PCR検査 24検体

③ 清浄化推進検査（随時）

	E L I S A検査	P C R検査	シーケンス検査
母子感染検査	0 頭	9 7 検体	0 検体
候補豚の検査	3 9 1 頭	1 2 1 検体	3 検体
繰上げ前検査	5 6 9 頭	1 2 4 検体	1 0 検体
病鑑等	1 7 頭	9 0 頭	0 検体

イ 一般農場～55農場

ステージング検査（年1回）

E L I S A検査 2, 489頭

P C R検査 620検体

シーケンス検査 91検体

12 市町村等自衛防疫活動支援事業（協会単独）**公益**

当協会で実施する家畜衛生業務の円滑かつ的確な推進を図るため、市町村家畜防疫会等の行う自衛防疫活動に対して支援・指導を行った。

・活動支援助成金交付先 市町村家畜防疫会 48団体

	H30 実績	備 考
標準活動費	960,000 円	@20,000 円×48 市町村
事業活動費	154,200 円	牛・豚予防接種の実績配分 単価：牛 10 円、豚 0.5 円
合 計	1,114,200 円	

13 特定疾病損耗防止事業（協会単独）**公益**

下記疾病に対して予防接種を推進した。

牛伝染性鼻気管炎ワクチン	2, 379頭
豚丹毒生ワクチン	2, 800頭
日本脳炎・パルボワクチン	313頭

14 養鶏研修会（協会単独）**公益**

高病原性鳥インフルエンザの防疫対策に資するため、養鶏農家及び関係機関・団体・業者等を対象に研修会を開催した。

（研修会概要）

・開催日時：平成30年11月5日（月）

・開催場所：成田国際文化会館

（演題1）「日本発信 アジアのアニマルウェルフェア」

安田 幸太郎先生（株式会社ハイテム）

（演題2）「高病原性鳥インフルエンザ対策としての農場のバイオセキュリティ強化」

竹原一明先生（東京農工大学）

(情報提供)「JA バンク千葉が取扱う農業資金について」

大西輝彦先生（農林中央金庫千葉支店）

・出席者：養鶏農家及び関係機関・団体等 71 名

Ⅲ 畜産の活性化を進める事業

1 畜産関係団体調整機能強化事業（(公社) 中央畜産会）**その他**

畜種を越えた畜産に携わる女性の集まり「ちば畜産レディースネットワーク」の活動を支援した。

また、本県の畜産・畜産物の理解と消費拡大を図る「千葉県畜産フェア」及び地方競馬の振興のため千葉県畜産賞（冠レース）を船橋競馬場で実施した。

2 畜産フードチェーン連携推進事業（協会単独）**公益**

消費者の県産畜産物に対する理解促進を図るため、県産豚肉を使った加工体験教室（ウインナー作り）を市町村及び関係団体の協力により印西市花の丘公園で親子を対象に実施した。

3 畜産フェア（協会単独）**公益**

地域住民並びに千葉県民等に対して千葉県の畜産・畜産物に理解を深めていただくため、第12回目の畜産フェアを10月13日（土）船橋競馬場ふれあい広場において開催した。

県内畜産関係の25団体が出展（新規出展1団体を含む：(有)ジェリービーンズ）し、千葉県畜産の現状等の普及啓発、骨密度測定や栄養相談、牛・豚焼肉、豚しゃぶ、串焼、乳製品、卵・厚焼玉子、アイスクリーム、はちみつ等の千葉県産畜産物等の試食販売を行った。

昨年度復活したダートマラソンについても昨年度以上の賑わいを見せた。

また、来場者には畜産フェア内のお店で買い物をするともらえる抽選券や、無料で参加できるスタンプラリー表で、協賛いただいた団体から豪華な畜産品が当たる大抽選会を実施し、県産畜産物の消費拡大を図った。

IV 畜産物の品質向上を図る事業

1 養豚改良対策事業 **その他**

登録登録を含めた業務を通じ本県の豚の改良推進と強化を図った。

1) 登録事業（協会単独）

優良種豚改良の基本となる登録を（一社）日本養豚協会登録規定に基づき実施した。

種豚登録 127 頭、子豚登記 227 頭、肉豚証明 741 頭、移動証明 21 頭

2) 優良種豚場認定事業（（一社）日本養豚協会

農家戸数の減少、規模拡大に伴い種豚の供給を担うブリーダーの役割は限定されてきている状況にある。

厳しい生産現場の状況を考えると、より能力（繁殖性・産肉性）の高い種豚の改良・確保が最も重要であることから、種豚の生産基盤強化と登録事業の推進を図るため（一社）日本養豚協会認定規定に基づく認定により育成強化を図った。

遺伝資源保存指定種豚場 4 場

3) 原種豚認定事業（協会単独）

（一社）日本養豚協会指定種豚場を対象とした事業として、本県純粋種豚の改良、資源確保のため本事業により助成・強化推進を図った。

認定農場に対する助成 4 農場

血統能力の証明に対する助成

種豚登録 60 頭・子豚登記 68 頭

2 千葉県産オリジナル豚肉生産体制強化事業（県） **その他**

平成 28 年 1 月に系統豚として認定されたランドレース種「ボウソウ L 4」について県内銘柄豚肉の素豚としての活用を促進し、銘柄豚肉の生産性向上および肉質の安定化を図るため、繁殖素豚の衛生的な生産体制構築および、L 4 導入農場における成績を客観的に評価し、改善に向けた検討を行なうことで、銘柄の生産性向上に向けた生産・供給体制及び L 4 の普及体制の構築を図った。

調査農場 4 場 L 24 腹 LW17 腹

V 畜産経営の安定化を図る事業

1 肉用子牛生産者補給金制度（（独）農畜産業振興機構）公益

（１）肉用子牛生産者補給金交付に係る業務

肉用子牛生産安定等特別措置法に基づき、生産者補給金の交付等の事業を通じ、肉用子牛生産の安定と経営の健全な発展に努めた。

① 平成30年度生産者補給金交付契約締結者 168人

② 事務委託先契約締結数 12件

1）契約肉用子牛の個体登録 （単位：頭）

区分 品種	平成30年 1月1日～ 3月31日	平成30年 4月1日～ 6月30日	平成30年 7月1日～ 9月30日	平成30年 10月1日～ 12月31日	計
黒毛和種	213	251	202	212	878
褐毛和種	—	—	—	—	—
その他肉専	6	4	6	5	21
乳用種	708	719	523	432	2,382
交雑種・乳	2,398	2,218	1,886	1,572	8,074
計	3,325	3,192	2,617	2,221	11,355

2）生産者積立金の積立額

品 種	契 約 頭 数 (頭)	積 立 単 価 (円)	積 立 額 (円)	負 担 区 分 (円)		
				農畜産業 振興機構	千葉県	生産者
黒毛和種	878	1,200	1,053,600	526,800	263,400	263,400
褐毛和種	—	—	—	—	—	—
その他肉専	21	12,400	260,400	130,200	65,100	65,100
乳用種	2,382	6,400	15,244,800	7,622,400	3,811,200	3,811,200
交雑種・乳	8,074	2,400	19,377,600	9,688,800	4,844,400	4,844,400
計	11,355	—	35,936,400	17,968,200	8,984,100	8,984,100

3) 生産者補給金交付状況

(単位：円、頭)

区 分	保証基準価格の品種区分		黒毛和種	その他肉専	乳用種	交雑種・乳	合 計
平成 30 年 1 月 1 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日	交付対象 頭数 ①	販売	-	-	-	-	-
		保留	-	-	-	-	-
		合計	-	-	-	-	-
	②生産者補給金単価		-	-	-	-	-
	③生産者補給交付金額(①×②)		-	-	-	-	-
	交付対象生産者数		-	-	-	-	-
平成 30 年 4 月 1 日 ～ 平成 30 年 6 月 30 日	交付対象 頭数 ①	販売	-	-	-	-	-
		保留	-	-	-	-	-
		合計	-	-	-	-	-
	②生産者補給金単価		-	-	-	-	-
	③生産者補給交付金額(①×②)		-	-	-	-	-
	交付対象生産者数		-	-	-	-	-
平成 30 年 7 月 1 日 ～ 平成 30 年 9 月 30 日	交付対象 頭数 ①	販売	-	-	-	-	-
		保留	-	3	-	-	3
		合計	-	3	-	-	3
	②生産者補給金単価		-	16,000	-	-	16,000
	③生産者補給交付金額(①×②)		-	48,000	-	-	48,000
	交付対象生産者数		-	2	-	-	2
平成 30 年 10 月 1 日 ～ 平成 30 年 12 月 31 日	交付対象 頭数 ①	販売	-	-	-	-	-
		保留	-	-	-	-	-
		合計	-	-	-	-	-
	②生産者補給金単価		-	-	-	-	-
	③生産者補給交付金額(①×②)		-	-	-	-	-
	交付対象生産者数		-	-	-	-	-
合 計 平成 30 年 1 月 1 日 ～ 平成 30 年 12 月 31 日	交付対象 頭数 ①	販売	-	-	-	-	-
		保留	-	3	-	-	3
		合計	-	3	-	-	3
	②生産者補給金単価		-	16,000	-	-	16,000
	③生産者補給交付金額		-	48,000	-	-	48,000
	交付対象生産者数		-	2	-	-	2

2 肉用牛繁殖経営支援事業（(独)農畜産業振興機構）公益

肉用子牛生産者補給金制度を補完し、子牛価格が発動基準を下回った場合に支援交付金を交付することで、肉用牛繁殖基盤の安定に努めた。

1) 支援交付金交付状況

区 分	品種区分	交付対象		支援交付金交付申請	
		人数 (人)	頭数 (頭)	単価 (頭／円)	交付申請額 (円)
平成 30 年度 第 1 四半期 (平成 30 年 4 ～ 6 月分)	黒毛和種	-	-	-	-
	褐毛和種	-	-	-	-
	その他の肉専用種	-	-	-	-
	小 計	-	-	-	-
平成 30 年度 第 2 四半期 (平成 30 年 7 ～ 9 月分)	黒毛和種	-	-	-	-
	褐毛和種	-	-	-	-
	その他の肉専用種	2	3	58,500	175,500
	小 計	2	3	-	175,500
平成 30 年度 第 3 四半期 (平成 30 年 10 ～ 12 月分)	黒毛和種	-	-	-	-
	褐毛和種	-	-	-	-
	その他の肉専用種	-	-	-	-
	小 計	-	-	-	-
平成 30 年度 第 4 四半期 (平成 31 年 1 ～ 3 月分)	黒毛和種	-	-	-	-
	褐毛和種	-	-	-	-
	その他の肉専用種	-	-	-	-
	小 計	-	-	-	-
合 計	黒毛和種	-	-	-	-
	褐毛和種	-	-	-	-
	その他の肉専用種	2	3	-	175,500
	合 計	2	3	-	175,500

3 肉用子牛生産者補給金制度運営体制整備強化事業

((独) 農畜産業振興機構) 公益

1) 制度運営適正化推進事業

肉用子牛生産者補給金制度にかかる業務の適正な実施を図るため、全国統一電算処理システムによる業務の充実と事務委託先との個体登録個体識別及び販売・保留確認等の業務の委託により適正かつ円滑な実施に努めた。

2) 指定協会運営体制支援事業

生産者補給金制度の推進のための実施体制の確立と運営基盤の安定化のために、財政的支援を得て、協会運営の財政的基盤の強化を図り、肉用子牛生産者補給金制度の適正な運営に努めた。

4 肉用牛肥育経営安定特別対策事業（（独）農畜産業振興機構）公益

肉用牛肥育経営は、もと畜の導入から肥育牛の出荷まで一定期間を要し、かつ、生産費に占めるもと畜費の割合が大きいことから、もと畜価格と枝肉価格の水準によっては大幅な収益性の悪化が懸念される。

このため、契約生産者積立金及び独立行政法人農畜産業振興機構からの補助金をもって肥育安定基金を造成し、肥育牛補填金を交付することで肉用牛肥育経営の安定に努めた。

平成30年度 肉用牛肥育経営安定特別対策事業 補填金交付状況

期間	品種区分	交付対象		肥育牛補填金	
		人数 (人)	頭数 (頭)	単価 (頭/円)	交付額 (円)
4 月期	肉専用種	0	0	0	0
	交雑種	59	1,052	60,800	63,961,600
	乳用種	15	264	38,000	10,032,000
	小計	74	1,316		73,993,600
5 月期	肉専用種	38	201	20,500	4,120,500
	交雑種	51	893	54,300	48,489,900
	乳用種	14	229	23,500	5,381,500
	小計	103	1,323		57,991,900
6 月期	肉専用種	32	168	28,300	4,754,400
	交雑種	50	849	75,000	63,675,000
	乳用種	16	310	21,900	6,789,000
	小計	98	1,327		75,218,400
7 月期	肉専用種	42	237	6,900	1,635,300
	交雑種	54	834	71,000	59,214,000
	乳用種	15	319	25,800	8,230,200
	小計	111	1,390		69,079,500
8 月期	肉専用種	33	221	39,300	8,685,300
	交雑種	45	783	50,800	39,776,400
	乳用種	17	271	25,400	6,883,400
	小計	95	1,275		55,345,100
9 月期	肉専用種	36	161	15,100	2,431,100
	交雑種	54	810	36,700	29,727,000
	乳用種	17	265	40,200	10,653,000
	小計	107	1,236		42,811,100

10 月期	肉専用種	0	0	0	0
	交雑種	55	908	25,200	22,881,600
	乳用種	16	294	33,700	9,907,800
	小計	71	1,202		32,789,400
11 月期	肉専用種	0	0	0	0
	交雑種	0	0	0	0
	乳用種	17	377	33,400	12,591,800
	小計	17	377		12,591,800
12 月期	肉専用種	0	0	0	0
	交雑種	0	0	0	0
	乳用種	16	347	39,700	13,775,900
	小計	16	347		13,775,900
合計	肉専用種	181	988		21,626,600
	交雑種	368	6,129		327,725,500
	乳用種	143	2,676		84,244,600
	小計	692	9,793		433,596,700

5 肉用牛肥育経営安定交付金制度準備業務（(独)農畜産業振興機構）公益

肉用牛肥育経営安定特別対策事業は、TPP 等関連法の施行に伴い畜産経営の安定に関する法律第 3 条の規定に基づく肉用牛の交付金の交付業務へと移行する。ついては、当該業務に係る事務について、農畜産業振興機構の委託を受け、肥育牛生産者の円滑な制度移行に努めた。

新制度登録生産者数：1 2 5 名

6 肉用牛肥育経営安定交付金制度（(独)農畜産業振興機構）公益

肉用牛経営安定交付金制度は、畜産経営の安定に関する法律に基づく法律制度であり、標準的販売価格が標準的生産費を下回った場合に肉用牛の生産者に対し、その差額の 9 割を交付金として交付することにより、肉用牛の生産者の経営に及ぼす影響を緩和すること目的としており、農畜産業振興機構の委託を受け、交付金の交付業務等を行うことで肉用牛経営の安定に努めた。

平成 3 0 年度 肉用牛肥育経営安定交付金制度 交付金交付状況

期間	品種 区分	交付対象		交付金 単価 (頭/円)	交付金の額 (円) (4/4)	交付金として 支払う額 (3/4)	積立金として 支払われる額 (1/4)
		人数 (人)	頭数 (頭)				
1 月期	肉専用種	0	0	0.0	0	0	0
	交雑種	0	0	0.0	0	0	0
	乳用種	12	252	54,378.9	13,703,476	10,277,604	3,425,872
	小計	12	252		13,703,476	10,277,604	3,425,872

2 月 期	肉専用種	0	0	0.0	0	0	0
	交雑種	0	0	0.0	0	0	0
	乳用種	12	230	64,769.4	14,896,956	11,172,712	3,724,244
	小計	12	230		14,896,956	11,172,712	3,724,244
3 月 期	肉専用種	0	0	0.0	0	0	0
	交雑種	0	0	0.0	0	0	0
	乳用種	11	264	74,024.1	19,542,358	14,656,764	4,885,594
	小計	11	264		19,542,358	14,656,764	4,885,594
合 計	肉専用種	0	0		0	0	0
	交雑種	0	0		0	0	0
	乳用種	35	746		48,142,790	36,107,080	12,035,710
	小計	35	746		48,142,790	36,107,080	12,035,710

7 豚肉生産安定対策事業（県）公益

農畜産業振興機構が実施する養豚経営安定対策事業の生産者負担金の一部を助成し、養豚経営の安定と肉豚の安定的な生産確保に努めた。

なお、12月30日TPP発効により第1～第3四半期分までの生産者負担金の一部を助成した。

養豚事業者数168名 補助単価1頭当たり70円

8 千葉県肉豚経営安定対策事業（県）公益

12月30日TPP発効により現行の養豚経営安定対策事業から肉豚経営交付金制度に移行したことに伴い新設。

農畜産業振興機構が実施する肉豚経営安定交付金制度の負担金の一部を助成し、養豚経営の安定と肉豚の安定的な生産確保に努めた。

養豚事業者数179名 補助単価1頭当たり40円

VI 特別事業

1 種豚改良対策基金（協会単独）その他

指定種豚場を対象とした原種豚農場の認定による本県純粋種豚の改良の促進と品質の高い豚肉を効率よく生産するための各種事業推進を図るためこの基金を有効に活用した。

Ⅶ その他

1 千葉県畜産物消費拡大推進協議会関連事業

安全・安心等消費者ニーズに応える県産物の銘柄等を推進し「千葉ブランド」を県内・首都圏に向け千産千消・千産全消の確立を目指している生産者団体が船橋市船橋競馬場（船橋ふれあい広場）において千葉県畜産フェアを開催した。

また、他団体が開催したイベント等に積極的に参加しPR活動を実施した。

2 千葉県養蜂協会関連事業

（１）養蜂振興推進事業（県委託事業）

養蜂振興法に基づき、県外からの転飼者の調整を実施した。

また、蜜源植生状況調査、花粉交配実態調査、蜂蜜等生産量調査並びに寄生虫の発生状況調査を実施した。

（２）ポリネーション推進事業

県果樹連等と交渉し、梨花粉交配用蜜蜂を貸し出した。

（３）販売対策事業

千葉県畜産フェアへ出展し、消費者へ養蜂や蜂産品に対する理解を深めた。また、千葉県畜産賞「三里塚特別競走」の副賞として蜂蜜を提供した。

（４）蜜源増殖対策事業

蜜源植物の苗木（椿、桜等）を共同購入し会員に配布、植栽を行った。

（５）養蜂技術研修事業

サージミヤワキ（株） 神氏を講師に招きご講演いただいた。（平成31年3月27日、館山市 安房自然村）

（６）防疫対策事業

ダニ駆除薬等（アピスタン、アピバール）を共同購入し、会員に配布した。

（７）養蜂飼料等斡旋物資対策事業

一般社団法人日本養蜂協会の斡旋による輸入免税砂糖等の共同購入を行い、会員に配布した。

3 馬事畜産振興推進事業

（１）平成30年9月4日 船橋競馬場会議室において平成30年度千葉県馬事畜産振興協議会総会を開催し、平成29年度事業報告及び収支決算、平成30年度計画及び収支予算について審議・決議した。

（２）平成30年10月13日、千葉県競馬組合が実施する「ふれあい広場」へ参加し、馬事畜産振興コーナーを設置し、パンフレット等の配布を行い地方競馬の普及啓発を図った。

（３）平成30年11月8日、船橋競馬場において、千葉県馬事畜産振興協議

会と協賛して、冠レース・千葉県畜産賞「三里塚特別」を実施し、優勝馬関係者に対して賞状並びに副賞を授与した。

4 ナイスポークチバ推進協議会関連事業

養豚経営の安定強化と産業振興を図るため、生産者自らの資金拠出による活動の柱である、県産（国産）豚肉の消費拡大、養豚経営安定強化のための政策要請、後継者育成のための青年部等の活動に対し、協会として生産者の活動を支援するため事務を取り扱った。

実 績

- (1) イベントでの消費者交流により県産（国産）豚肉の消費拡大推進
- (2) 国産豚肉消費拡大のため、養豚チェックオフ制度法制化推進
- (3) 自由民主党県議会議員会畜産振興議員連盟との情報交換
- (4) オーエスキー病清浄化のための要請と清浄化の推進
- (5) 養豚におけるクラスター事業への積極的参加
- (6) サポーター会員制度による県産（国産）豚肉のPR推進
- (7) 関東ブロックによる養豚振興のための情報交換参加
- (8) 熊本地震で被災の国宝熊本城復興支援のための募金活動の実施
- (9) 組織強化のための会員加入推進
- (10) 生産性向上のための講習会、研修会の開催及び協賛
- (11) 養豚経営安定対策事業（全国肉豚）の業務委託に伴う農家指導
- (12) （一社）日本養豚協会（JPPA）との連携による活動
 - ① チェックオフ協議会との情報を共有し法制化に向け活動
 - ② 自民党衆参国會議員で創る養豚農業振興議員連盟への要請活動
 - ③ 国産豚肉消費拡大のためのイベントへの参加
 - ④ 豚コレラ対策のための情報の共有と対策に関する要請活動
 - ⑥ アフリカ豚コレラに関する情報の共有と水際対策のためのキャンペーン参加

5 千葉県自家検定推進協議会関連事業

原種豚の確保と能力の高い種豚の改良を担う生産者に対し、協会の執行事業関連事務を取り扱った。

6 ちば畜産レディースネットワーク関連事業

畜種を越えた畜産に携わる女性のネットワークとして、平成19年3月に設立、会員は女性経営者をはじめ県関係機関・団体女性職員等の55名（内3賛助団体）で、会員相互の情報交換・研修・消費者交流等の活動への支援等、事務を取り扱った。

- ① 情報交換会として、総会終了後、参加者全員が1分間スピーチを行い、取り組んでいること、経営内容の紹介等意見・情報の交換を行った。

- ② 研修会として、本年度は君津市方面へ視察に行った。道の駅や直売所等の視察を行った。
- ③ 消費者交流として、千葉県畜産フェアに出展し会員の加工品等の販売を行った。販売に加え多数の県民消費者と畜産に関する会話等交流を行った。

7 NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター関連事業

畜産に係わる生産者等への支援や畜産振興に向けた消費者等との交流を図るために設立した。現在会員は、団体・個人会員を含めて81名です。

当畜産協会が行う下記の畜産支援事業や人材情報システム運営及び団体事務受託、消費者交流・動物情操教育事業について、その一部をNPO法人に委託、または協力を得て実施した。

- (1) 畜産経営支援事業
 - ・畜産情報収集・提供事業 ・農場HACCP取組体制緊急強化事業
 - ・馬事畜産振興推進事業 ・野生獣衛生体制整備推進確立対策事業
 - ・千葉県エコフィードコーディネーター設置事業
 - ・死亡牛の受入及び保管等補助業務（県公募事業）
- (2) 人材情報システム運営及び団体事務受託
 - ・県農業大学校畜産関係非常勤講師派遣
- (3) 消費者交流・動物情操教育事業
 - ・千葉県畜産フェア「畜産何でも相談コーナー」設置
 - ・千葉県畜産フェアで消費者を対象とした農場HACCPに関する概要説明やパネル展示の説明、アンケート調査に協力した。

8 千葉県肉用牛損害賠償請求生産者会関連事業

東京電力福島第一原子力発電所の事故により、放射能物質により汚染された稲わらが流通し牛肉などに風評被害が出ている問題で、千葉県内の肉用牛生産農家が損害賠償請求を行うため、平成23年度に設立された「千葉県肉用牛損害賠償請求生産者会」の事務局を平成30年度も引き続き行い、県の指導と下記支援団体の協力を得て賠償請求を行った。

<支援団体>

千葉県家畜商協同組合、千葉県肉牛生産農業協同組合、
 千葉県配合飼料価格安定基金協会〔千葉県全日本畜産経営者協会〕、
 一般社団法人千葉県農業協会（肉用牛部会）、株式会社千葉県食肉公社、
 横芝光町（東陽食肉センター）、
 県南畜産処理事業協同組合（南総食肉センター）

(1) 請求状況

請求次	請求者数	請求金額（千円）	請求日
26	67	16,677	平成29年12月19日

27	72	15,195	平成30年 3月29日
28	69	11,431	平成30年 6月 8日
29	68	14,545	平成30年12月 6日
30	65	12,737	平成30年12月19日
31	68	17,164	平成31年 4月26日
計		55,877	

(2) 支払状況

請求次	支払者数	支払金額 (千円)	支払完了日
26	67	16,677	平成30年 8月27日
27	72	15,195	平成30年10月12日
28	69	11,429	平成31年 4月24日
29	68	14,546	平成31年 4月20日
30	65	12,655	令和 元年 5月17日
計		70,502	

※支払完了日は各請求次における最終支払者の日付である。

(3) 請求対象期間

請求次	期 間
26	平成29年 7月 1日～平成29年 9月30日
27	平成29年10月 1日～平成29年12月31日
28	平成30年 1月 1日～平成30年 3月31日
29	平成30年 4月 1日～平成30年 6月30日
30	平成30年 7月 1日～平成30年 9月30日
31	平成30年10月 1日～平成30年12月31日

※第2次以降の請求については、未請求・請求漏れを含む場合がある。

9 チバザビーフ協議会関連事業

(1) 県産牛肉ブランド力向上対策事業（県補助事業）

県産牛肉のブランド力向上に不可欠な出荷頭数の拡大と高品質化及び銘柄牛肉の知名度向上に努めた。

【チバザビーフ知名度向上対策事業】

① 推進活動

総会・講習会（平成30年7月、マロウドインターナショナルホテル成田）及び理事会・専門部会（5月、10月、1月、計3回）を開催した。

② 広報活動

・エアポートマーケット「空市」（平成30年4月、成田空港）出店

- ・ちばアクアラインマラソン PR イベント（４月、KITTE）協賛
- ・どきどきフリーマーケット「ぎゅうぎゅう祭り」（５月、幕張メッセ）協賛
- ・かしわ駅ウエルカムデー「リアル宝さがし」（５月、柏駅周辺）協賛
- ・チバテレスペシャルウィーク（６月、千葉テレビ）協賛
- ・ゆめの収穫祭（９月、成田ゆめ牧場）協賛
- ・千葉の大地と海の恵み商談会（１０月、オークラ千葉ホテル）出展
- ・第１２回千葉県畜産フェア（１０月、船橋競馬場）協賛
- ・ちばアクアラインマラソン2018（１０月、牛込漁港、千葉テレビ）出店・協賛
- ・チバテレ４時間リレーマラソン（１１月、ZOZO マリンスタジアム）協賛
- ・うまい牛肉チバザビーフキャンペーン（平成３０年２月、県内各地）開催
- ・第１９回全国穴掘り大会（２月、成田ゆめ牧場）協賛
- ・チバザビーフ枝肉共励会・前夜祭（３月、第一ホテル東京シーフォート）開催
- ・その他 各銘柄でのチバザビーフPR活動支援

ホームページの維持・更新

販促資材（ポスター等）の作成

【チバザビーフ肥育技術向上対策事業】

枝肉品評会の開催

千葉県肉牛生産者の研鑽の機会を創出し、飼養管理技術の向上を図るとともに、食肉流通業者等へ県産牛肉の知名度向上を図るため、集荷量日本一の東京中央卸売市場において枝肉共励会・研究会を開催した。

枝肉共励会 年１回（平成３１年３月）

〈出品頭数〉８０頭（黒毛和種 ３９頭、交雑種４１頭）

枝肉研究会 年２回（平成３０年７月、１１月）

〈出品頭数〉 ７月：６０頭（黒毛和種 ２５頭、交雑種 ３５頭）

１１月：６１頭（黒毛和種 ２２頭、交雑種 ３９頭）

１０ チバザポーク販売推進協議会関連事業

千葉県の銘柄豚肉出荷団体が連携しチバザポークの知名度向上と販売促進に努めた。

①連絡会議の開催

県産豚肉の知名度向上のための連絡会議を年２回開催した。

②主なPR活動

- ・船橋競馬場冠レースでの試食・販売
- ・チバザポーク DE バトルパーティー（京成ホテル）
- ・千葉県畜産フェアでのPR（船橋競馬場）
- ・ちばの大地と海の恵み商談会（オークラ千葉ホテル）
- ・チバザポークフェスタ２０１８（県内９社のホテル）
- ・酪農のさと秋の観光まつりにて試食